

ハ ウタゴエ
涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展



The Echoes from the Abyss:
The Poems of Gozo Yoshimasu
exhibition

2018年
8月11日(土・祝)
～
9月24日(月・休)

※会期中一部展示替えがあります

① 作家近影 2017年 撮影:中野愛子

◆ 展覧会概要

吉増剛造(よします・ごうぞう 1939-)は、1960年代から現在にいたるまで、日本の現代詩をリードし続けてきました。その活動は、詩をはじめとすることばの領域にとどまらず、写真や映像、造形など多岐にわたり、私たちに魅了し続けています。

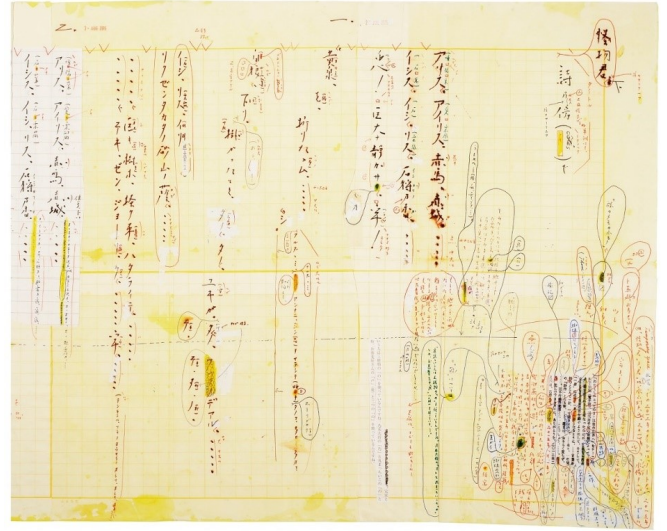
常にことばの限界を押し広げてきた吉増の詩は、日本各地、世界各国をめぐり、古今東西、有名無名の人々との交感を重ねる中で綴られてきました。本展は、「Ⅰ、詩集の彼方へ」「Ⅱ、写真を旅する」「Ⅲ、響かせる手」の三部で構成されます。吉増の各時代の代表的な詩集を柱とし、詩や写真をはじめとする作品群に加えて、関連するさまざまな表現者の作品や資料など約140点を展示することで、半世紀以上におよぶ吉増の活動を辿ります。

現代のみならず、古代の営みにまで遡ってさまざまな対象をとらえ、そこからかつてないビジョンを生み出し続ける吉増の視線、声、手は日常を越えた世界への扉を私たちの前に開くでしょう。

◇ 展覧会構成

I、詩集の彼方へ

『黄金詩篇』(1970年)、『オシリス、石ノ神』(1984年)、『怪物君』(2016年)といった代表的な十冊の詩集を時代ごとに選び、それらの直筆原稿や校正稿などとともに、中西夏之の《コンパクト・オブジェ》(足利市立美術館蔵)、若林奮のドローイング(WAKABAYASHI STUDIO蔵)といった各時代で関わりのある人々の作品や資料を紹介しています。また、若林との交流によって、吉増が文字や言葉を銅板に彫金で刻んだ《銅板打刻作品》(作家蔵)も出陳いたします。



② 吉増剛造『怪物君』原稿 2015年頃 作家蔵



③ 中西夏之《コンパクト・オブジェ》
1962年 足利市立美術館蔵



⑤ 加納光於
《桃色の魚座に沿って—吉増剛造のために—》1974年
千葉市美術館蔵



⑥ 若林奮
《ドローイング 1999.2.4》
1999年
WAKABAYASHI STUDIO蔵



⑦ 若林奮
《ドローイング 1999.8.1》
1999年
WAKABAYASHI STUDIO蔵



④ 吉増剛造《銅板打刻作品》1990-2000年 作家蔵

II、写真を旅する

詩人としての活動の初期から撮影されてきた多くの写真をはじめ、吉増独自の多重露光の写真を展観することで、彼の多様な活動の一端を辿ります。



⑧ 吉増剛造《多重露光写真》1990-2000年代 作家蔵



⑨ 吉増剛造《多重露光写真》
1990-2000年代 作家蔵



⑩ 吉増剛造《多重露光写真》
1990-2000年代 作家蔵

Ⅲ、響かせる手

現代詩人の中では、手で言葉を記すという行為を稀に見るほど深めてきた吉増の表現者としての面を、豊かな色彩と文字で記された『根源乃手／根源乃(亡露ノ)手、……』原稿(作家蔵)や、直筆原稿の上にカラフルなドリッピングを施した複合的作品である『火ノ刺繍』(作家蔵)などから読み解いていきます。ここでは言葉を書き留めた原稿が、絵画的ともいえる表現へと昇華し、吉増の抱くイメージの世界が、より豊かで可視的なものとして見る人の前に現れてきます。この章では、本人の作品以外に吉増が言及してきた吉本隆明、西脇順三郎、瀧口修造、萩原朔太郎といった様々な表現者、書き手の原稿や資料なども紹介します。

さらに吉増の詩作のイメージの根源となった浦上玉堂や与謝蕪村などの文人画や良寛の書なども展示されます。



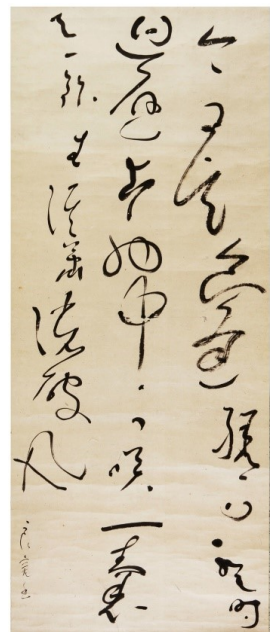
⑪ 与謝蕪村《山水図》1782年 絹本着色 個人蔵



⑫ 吉増剛造《火ノ刺繍》2017年 作家蔵



⑬ 吉増剛造《火ノ刺繍》2017年 作家蔵



⑭ 良寛《今日乞食逢驟雨》
1820年頃 紙本墨書
良寛記念館蔵

◇会期中イベント

◆ 記念対談 ◆

吉増剛造 氏(詩人) × 岡野弘彦 氏(歌人)対談
民俗学者で歌人でもあった折口信夫の弟子であり、宮中歌会始の選者も務めた現代短歌界の重鎮、岡野弘彦氏。今も日本の現代詩をリードし続ける吉増剛造氏。吉増氏が望んだ二人の対談が実現します。

9月8日(土) 午後2時～(約1時間30分)地下2階ホール
* 無料(要入館料) * 定員80名
* 午後1時から地下2階にて整理券を配布します

■ ワークショップ「声の力」

アナウンサーの山根氏の朗読や、吉増氏とのかけあいを通じて、普段私たちが意識することのない「声」や「ことば」の持つ力を体験します。

8月26日(日) 午後2時～ 地下2階ホール
講師: 吉増剛造 氏(詩人)、山根基世 氏(フリーアナウンサー)
* 無料(要入館料) * 定員30名(多数応募の場合は抽選)
* 小学生以上(小・中学生は保護者同伴可)
* 往復はがきによる事前申込、締切は8月15日(水)必着
〒住所・氏名・年齢・日中連絡可能な電話番号・参加希望人数・保護者同伴の場合は保護者氏名をご記入の上、松濤美術館「声の力」係まで 1枚のはがきで2名まで申込可能

■ 吉増剛造 氏(詩人)&大友良英 氏(ギタリスト)によるコラボレーション「薄明り、、、、、ターンテーブル」

詩人自らがつむぎだしたイベントタイトル「薄明り、、、、、ターンテーブル」。吉増氏のパフォーマンスに寄り添うように、大友氏が表現のアプローチとしてターンテーブルを使い音を奏でます。二人が音楽と詩の新たな世界に挑み、未知の扉をひらいてくれることでしょう。NHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」の主題歌を作曲した大友氏が、吉増氏のパフォーマンスにどんな彩を添えてくれるか、乞うご期待です。

9月1日(土) 午後2時～(開場午後1時30分) 地下2階ホール
* 無料(要入館料) * 定員80名(多数応募の場合は抽選)
* 往復はがきによる事前申込、締切は8月17日(金)必着〒住所・氏名・年齢・日中連絡可能な電話番号・参加希望人数をご記入の上、松濤美術館「コラボレーション」係まで1枚のはがきで2名まで申込可能

■ 担当学芸員によるギャラリートーク

8月25日(土)、31日(金)、9月16日(日) 午後2時～(約30分)
* 無料(要入館料) * 事前予約の必要はありません

■ 館内建築ツアー

8月17日(金)、24日(金)、31日(金)、9月7日(金)、14日(金)、21日(金) 午後6時～(約30分)
* 無料(要入館料) * 各回定員20名
* 事前予約の必要はありません

◇開催概要

展覧会名	ハ ウタゴエ 涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展 The Echoes from the Abyss: The Poems of Gozo Yoshimasu exhibition
会期	2018年8月11日(土・祝)～9月24日(月・休) ※会期中、一部展示替えがあります
開館時間	午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) ※金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで)
入館料	一般500(400)円、大学生400(320)円、高校生・60歳以上250(200)円 小中学生100(80)円 *()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 *土・日曜日、祝休日及び夏休み期間は小中学生無料 *毎週金曜日は渋谷区民無料 *障がい者及び付添の方1名は無料
休館日	8月13日(月)、20日(月)、27日(月)、9月3日(月)、10日(月)、18日(火)
主催	渋谷区立松濤美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛	ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
会場	渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 電話: 03-3465-9421 HP: http://www.shoto-museum.jp/

交通案内

- 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分
 - JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分
- ※駐車場はございません。

◇次回展のご案内

「林原美術館所蔵 大名家の能装束と能面」
2018年10月6日(土)～11月25日(日)



報道関係のお問い合わせ

広報担当 吉井(yoshii@shoto-museum.jp) 展覧会担当: 平塚(hiratsuka@shoto-museum.jp)
西 (nishi@shoto-museum.jp)
電話: 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

- * 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。
- * 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 画像のご利用後、データは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
- * 掲載後、見本誌をご送付いたしますようお願いいたします。